



福山平成大学

FDニュースレター No.11



発行：福山平成大学
F D 推進委員会
〒720-0001
広島県福山市御幸町
上岩成正戸 117-1
084 (972) 5001 (代)
fd@heisei-u.ac.jp

目 次

第 1 0 回「私の授業発表会」

1. 在宅看護論 ～「家族・家族看護（観察視点作成）」紹介を終えて～（谷田恵美子 教授）----	1
谷田先生の授業を拝見して ～看護に必要な知識と、臨地での看護実践を“繋ぐ”授業～ （林田 馨 准教授）-----	2
2. 在宅看護論 ～「地域ケアシステムとネットワーク化・保健師の訪問看護の意義」について～ （林田 馨 准教授）-----	3
林田先生の授業を拝見して ～事例から考える地域システム～（谷田恵美子 教授）-----	4
平成 2 6 年度 F D 研修会報告 ～関西大学 三浦真琴 先生をお迎えして～ 「Future Design for Active Learning ～アクティブ・ラーニング事始め～」-----	5
平成 2 6 年度 F D 講習会報告「実用統計講座」（経営学科 福井正康 教授、尾崎誠 講師）-----	5
平成 2 6 年度学生による授業アンケート調査結果-----	6
F D 関連図書コーナー新着案内-----	1 1
平成 2 6 年度 F D 推進委員会活動記録-----	1 2

第 1 0 回「私の授業発表会」

平成 2 7 年 1 月 2 2 日に、今年度の「私の授業発表会」が本学 3 号館 3 2 0 3 教室で開催されました。今回は看護学部看護学科の 2 名の先生により、グループワークを有効に活用された授業について紹介されました。それぞれご自身の授業でのさまざまな工夫や、相手の授業の観察結果についての発表があり、質疑応答も活発で有意義な発表会になりました。

発表 1

在宅看護論

～「家族・家族看護（観察視点作成）」紹介を終えて～

看護学部 看護学科 教授 谷田 恵美子

授業紹介の前に、授業に関する背景等を説明した。参加教職員に対して、看護はおもしろい。そこには解剖・生理、病態と実際の看護とつながり、看護現象の意味が見えてくることである。そのためにはコツコツ学んでいくことが求められる。グループワークを 1 年次から取り入れ、ポートフォリオ（1 年前期／社会福祉・社会保障論 → 1 年後期／健康管理論 → 2 年前期／援助の人間関係論 → 2 年後期／在宅看護論 → 3 年前期／在宅看護援助論 → 3 年後期／在宅看護実習→国試対策）を行っている。

在宅看護は 1996 年からスタートし、このたび 2008 年の改正からは統合教科に位置づけられた。今、国の方針では



新卒生を在宅の現場に就職をさせようと考えている。

家族看護関係の講義は旧カリキュラムでは3教科45コマで実施していたが、家族に関係するものはなくなり、在宅看護論の中の2コマで実施することとなった。

本講義は、ホーム・ワーク（グループ・ワーク）を前提に、講義「家族・家族看護（観察視点作成）」を構成した。講義の流れとして1）プリントを配布し、家族看護の歴史からスタートし、家族看護の定義、健康保持増進のためには家族役割、家族看護、家族関係、家族病理など基本的なことを押さえた。2）テキストで家族機能、家族関係図・ジュノグラム、家族サポートシステム・エコマップ、円環モデル、家族対処能力・ABC-Xモデル、家族のアセスメントを確認した。3）パワーポイントを使い、グループワークで行う、家族アセスメントするため枠組み「家族の観察視点」を説明、作業プロセス、①看護診断名確認、②観察視点「1 家族構造はどうか、2 家族機能はどうか、3 家族の対応能力・適応能力はどうかの枠組みで項目を拾う」、③家族に関するメモの記入について説明、実際に昨年度の作成されたものを提示、4）各個人で家族のジュノグラム・エコマップを作成した。流れの途中、質問をうながし確認をしつつ、講義を進めた。時間数の削減は、家族病理が充分おさえきれない可能性が高い。

家族の観察視点のグループワーク1～10Gは11/3～12/21で、すべて完了した。観察視点はこれまでの学習の整理で、これから学習した内容は随時追加していく予定である。実際に実習記録として利用する予定である。観察視点すべてで観察は難しい。見えていない自分を認識して看護をしてほしいと考えている。

在宅看護の対象は本人及び家族である。家族をも理解し、援助していく必要がある。学生にとって家族は身近な存在である。グループワークでは各メンバーの家族を話し合うと、10通りの家族の話しができ、ホーム・ワークに発展性があると考ええる。なお、グループワークにまじめに参加した人が点数を取れる配慮したテストをおこなう予定である。

発表会後の質問にあったように、グループワークを実施するには階段教室は使いにくい。そのため、狭いが看護棟の教室を利用している。1グループは5～6人が理想であるが、10人程度で行っている。座席指定をし、授業態度の悪い学生を前の席にするなど工夫をしている。また、15回の講義の初回に基本的な資料を配布し、随時説明を加えている。残念ながら資料を持参しない学生がおり、グループで見せ合うように声掛けをしている。

看護過程は難しいと学生は訴える。看護として何を見るかがしっかりとしていると自動的に看護援助が見えてくる。観察の視点作成すなわち「看護過程」自動装置である。在宅看護実習で療養者・家族への思いやり、看護が見える記録が書けるようになってきた。実習を通じて学生の成長は目を見張るものがある。

観察者コメント

谷田先生の授業を拝見して

～看護に必要な知識と、臨地での看護実践を“繋ぐ”授業～

看護学部 看護学科 准教授 林田 馨

今回、谷田恵美子先生の講義を拝見し、今後の、私自身の授業内容を検討する機会を頂きました。以下に、授業をみて学んだことや感想を記載致します。このような機会を与えて下さった皆様に、感謝いたします。



1. 学生が興味や関心を持って聴講するために授業内容の工夫がみられた。

本授業は、「在宅看護と家族（エコマップ・ジュノグラム）」についての内容であったが、テキストの中にはない、家族看護に関係する定義などについて分かりやすく紹介され、エコマップやジュノグラムについても、サザエさん一家の話を用いて、学生が興味を持って聴講できるような工夫がなされていた。

2. 実際の臨地の場での実践活動などを、学生に分かりやすく

伝えていた。

学生の集中力が切れないように、テキストの内容のみの話をするのではなく、テキストの内容の理解を高めるために、実際の臨地での看護実践活動等を紹介し、学生が授業に関心を持って聴講できるよう工夫がなされていた。

このような授業の工夫は、看護実践の経験のない学生にとって、臨地における看護職の実践を出来るだけ体感させ、理解を深めるため、実学である看護においては、大変、貴重な経験であると言える。

3. 看護師としての実践能力を高めるための工夫がなされていた。

本授業では、家族看護に必要な理論や定義の説明、エコマップ・ジェノグラムの説明やその記載方法のみにとどまらず、看護職が臨地で看護実践を行う際に必要となる看護過程の展開方法についても触れていた。看護過程では、看護職が支援を行う対象をどのようにアセスメントしていくのかを説明し、学生に演習や宿題を課していた。

通常、学生が臨地実習をする際に、対象者の身体的側面だけでなく、精神的側面、社会的側面など、全人的に対象をみていく必要があり、学生に課せられる課題は多く、十分に対象者を把握し、個別性のある適切な看護計画を考案し実践することは困難な状況である。しかし、このような、谷田先生の授業内容の工夫により、2 年次後期の基礎看護学実習や、3 年次後期の各領域実習での実践で役立つことが期待される。

4. 演習や宿題を取り入れることにより、学生の授業内容への理解が深まった。

谷田先生の授業の最も特徴的なものとして、看護過程の演習や宿題がある。学生の中には、その内容の難しさから課題の作成を十分なものに完成できない者もいるが、再三の課題の提出やグループワークを課すことにより、グループ間での協調性が養われ、“分からない”あるいは“分かったつもり”の学生の知識を補うものである。

発表 2

在宅看護論

～「地域ケアシステムとネットワーク化・保健師の訪問看護の意義」について～

看護学部 看護学科 准教授 林田 馨

1. 授業概要

本授業は、看護師国家試験受験資格取得のために必須となる科目であり、2 年次後期に配当されている。今回、「地域ケアシステムとネットワーク化・保健師の訪問看護の意義」というタイトルで授業を行った。本授業のねらいは、地域における潜在的・顕在的ニーズを把握し、それらの課題を解決するために、どのような手段を用いて、どのような施設やマンパワーと協同・連携していくのか、実際の事例の中から理解を深め、そのなかで、看護職の役割とは何かを理解することである。学習目標は、地域ケアシステムの概念・発展過程の理解と、地域ケアシステムにおける実際の保健師の役割を理解することとした。授業は、パワーポイントとレジュメを用いた。

2. 授業での工夫

1) 地域ケアシステムの概念の理解について

地域ケアシステムの概念を理解するために、システムの定義と構成要素、社会資源と連携、ネットワークの定義について触れた上で、地域ケアシステムについて説明を行った。

2) 保健師が行う家庭訪問の目的と対象についての理解

2 年次後期では、まだ、公衆衛生看護学概論も開講されておらず、保健師の活動の実際について十分学んでいない時期である。そこで、保健師が行う家庭訪問の形態について説明した後



に、どのような対象に家庭訪問すると思うか学生に発問し考えさせた。また、保健師の行う家庭訪問は、法に則って行っていること等を説明した。

3) 地域ケアシステム構築の実際理解

地域ケアシステムの発展過程やシステム構築の実際については、学生に説明するだけでは理解が困難である。したがって、十分な理解が得られるよう、実際の地域の事例を紹介し、1つの机（学生3人）を1グループとし演習の時間を作った。事例には、実際の町の人口推移や世帯構成等の統計情報、近隣の家との距離や交通アクセスの問題、また、実際のフィールド調査で得た、顕在的・潜在的問題などを取り上げ、地域のニーズやシステム構築における各段階でどのような社会資源や支援が必要なのか、また、新たに創出すべき資源や支援はないか等、発問した。

3. 当該授業の課題

本授業の内容は、前任校である岡山大学大学院保健学研究科の助教として、当時の上司である教授にアドバイスをいただきながら作成したものであり、当時、初めて学生に授業を行ったことから、私にとって宝物の様な思い出深いものである。毎年、その内容をリニューアルしている。私は、実際の地域に潜むニーズを掘り起こし、支援に繋げていく能力が看護職には必要と考える。未だ、公衆衛生看護学の初学者である2年生の学生達に、公衆衛生看護活動の面白さ等、伝えたいことが多すぎて、今回、時間オーバーとなってしまった。次回は、もう少し計画的に時間配分をしようとする。

観察者コメント

林田先生の授業を拝見して

～事例から考える地域システム～

看護学部 看護学科 教授 谷田 恵美子

講義は和やかな雰囲気で始まった。講義はパワーポイントを利用して1)保健師による訪問は、法律（母子保健法、感染予防法、地域保健法、精神保健福祉法）を背景に実施されている。2)保健師の訪問は本人・家族だけでなく地域全体を見据える必要がある。3)地区の統計（高齢化率）。3)地域の写真（中山間地域）、集落の家の様子を図式化。4)一人暮らしの高齢者、多世代、さらに各家の事例を提示する。5)地区診断。6)サポート、社会資源（フォーマルとインフォーマルサービス）活用。地域の抱える問題点・課題の明確化、地域全体に取り組むべき方法、すなわち看護活動として地域システム化が明確になるよう進められた。

地域の高齢化率を提示し、その意味を考える。各家の状況を示し、地区として何が問題なのか。地区にどんなサポートの必要性があるか。数名のグループでの話し合い、個人を指名して発表。間違っただけの回答に対してもフォローしながら進めていく。パワーポイントだけでなく、まとめの資料（括弧ぬき）を配布し、課題・グループワーク・回答、正解の説明とすすめられていた。最後まで行かなかった部分は後日、回答を示された。

パワーポイントは構成がしっかりしており、わかりやすく、見やすく工夫されていた。質問され、ズレた回答に対しても笑顔でフォローしながら進められていた。学生は授業に興味をもち、プリントを完成する作業を通じて、一生懸命考えていたのが印象的であった。

在宅看護は介護保険による訪問、医療保険による訪問、保健師による訪問（訪問指導・家庭訪問）がある。介護保険による訪問、医療保険による訪問は療養者・家族からの要請で訪問し受け入れ体制が整っている。しかし、保健師による訪問は玄関に入れてもらえない、何回も訪問しやっと玄関に入れてもらえるなど、苦労がある。それらの苦労話も盛り込まれると良かったと考えられた。



平成 26 年度 F D 研修会報告 ～関西大学 三浦 真琴 先生をお迎えして～

Future Design for Active Learning ～アクティブ・ラーニング事始め～

平成 27 年 2 月 12 日に、本年度の F D 研修会が開催されました。参加者は約 50 名です。今年は、講師に関西大学の三浦真琴先生(教育推進部教育開発支援センター副センター長・教授)をお招きして、「Future Design for Active Learning ～アクティブ・ラーニング事始め～」というテーマで、研修会を行いました。三浦先生は教育社会学や高等教育論がご専門で、F D の分野での、第一線でご活躍されています。

研修会は約 90 分で、まず三浦先生が、アクティブ・ラーニングを実現するためには、その手法に親しむ前に、学生をどのような学習者に育てたいのかということを考えることが重要であるということをお話されました。また実際に関西大学で三浦先生が実施されている、L A (Learning Assistant)を活用した授業を通じて、アクティブ・ラーニングの有効性を紹介されました。



その後研修に参加した教職員が 4～5 人ずつのグループに分かれ、アクティブ・ラーニングに欠かせないグループワークを体験しました。このタイプの研修会は初めてで、一方通行の講演を聞くだけでなく実際にグループワークを体験する参加型研修に、教室内は大いに盛り上がりしました。

研修会後のアンケートには「グループワークの考え方が変わりました」「授業に必ず取り入れたいと思います」などの多くの積極的な感想が寄せられ、本学の今後の教育に生かすことができる内容の、有意義な研修会でした。



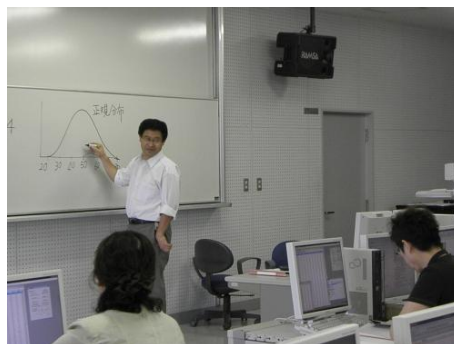
平成 26 年度 F D 講習会報告

実用統計講座

経営学部経営学科 福井正康 教授・尾崎誠 講師

平成 26 年 8 月 20 日及び 22 日に、経営学部の福井正康教授と尾崎誠講師による F D 講習会「実用統計講座」が、本学のコンピュータ教室で開催されました。

この F D 講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生を中心に取り組んでいただき、今年で 7 年目になります。福井先生がご自身で開発された社会システム分析ソフトウェア



「College Analysis」を用いて、毎年異なるテーマで行われており、今年度も看護学部の教員を中心とした参加者のみなさんが、授業改善に役立てようと、熱心に受講していました。

平成 27 年度にも F D 講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げます。



平成26年度 学生による授業アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 実施期間

前期：平成26年7月10日（木）～7月29日（火）

後期：平成27年1月14日（水）～2月4日（水）

(2) 対象科目

演習・実習等の科目を除く、全科目（履修者数5名未満の科目を除く）

(3) 実施科目数

前期：263科目

後期：251科目

(4) 実施方法

科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙を配布し、学生が回収して学務課に提出。

アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却。

大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当FDニュースレター等で公表。

(5) 設問

<授業に関する設問>

Q1. シラバス（授業概要）は、この授業の履修の決定や学習に役立った

Q2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった

Q3. この授業の進度は、適切だった

Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった

Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）

Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった

Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった

Q8. この授業は、有意義だった

<学生の受講態度に関する設問>

Q9. この授業にきちんと出席した

Q10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた

Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

(5) 回答方法

- 5段階評価
- 5：よくあてはまる
 - 4：ややあてはまる
 - 3：どちらともいえない
 - 2：あまりあてはまらない
 - 1：全くあてはまらない

(6) その他

科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり。

2. 大学全体の結果（図1）

（上段：前期、下段：後期）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1 シラバス	34.1%	35.9%	26.4%	2.6%	1.0%	0.0%	3.99
	38.5%	35.9%	22.7%	1.9%	0.9%	0.0%	4.09
Q2 到達目標・注意事項の説明	40.0%	38.6%	18.6%	2.1%	0.7%	0.1%	4.15
	44.6%	37.3%	15.7%	1.7%	0.6%	0.1%	4.24
Q3 授業の進度	43.1%	37.1%	16.1%	2.7%	0.8%	0.1%	4.19
	47.2%	35.2%	14.9%	2.0%	0.6%	0.1%	4.26
Q4 教員の話し方	45.3%	34.5%	15.6%	3.1%	1.3%	0.1%	4.19
	49.5%	33.3%	13.4%	2.7%	1.0%	0.1%	4.28
Q5 板書・視聴覚機器	43.3%	34.4%	17.4%	3.4%	1.4%	0.1%	4.15
	47.3%	33.9%	15.0%	2.7%	1.1%	0.0%	4.24
Q6 教員の説明・指導	43.5%	34.7%	17.2%	3.1%	1.4%	0.1%	4.16
	48.1%	33.2%	14.5%	3.0%	1.1%	0.0%	4.24
Q7 教室の環境・設備・機材	43.6%	36.6%	16.9%	2.0%	0.7%	0.1%	4.20
	48.6%	34.4%	14.6%	1.8%	0.7%	0.1%	4.28
Q8 授業は有意義だった	45.1%	33.9%	17.1%	2.4%	1.2%	0.3%	4.20
	48.7%	33.2%	14.7%	2.1%	1.0%	0.3%	4.27
Q9 出席状況	66.5%	21.9%	9.4%	1.3%	0.2%	0.8%	4.54
	60.5%	26.3%	10.8%	1.4%	0.2%	0.8%	4.47
Q10 受講マナー	59.6%	27.4%	10.9%	1.1%	0.1%	0.8%	4.46
	58.3%	29.0%	10.9%	0.9%	0.2%	0.8%	4.45
Q11 授業への取り組み	47.6%	31.1%	17.6%	2.1%	0.7%	0.9%	4.24
	49.9%	31.5%	15.5%	1.7%	0.6%	0.8%	4.30

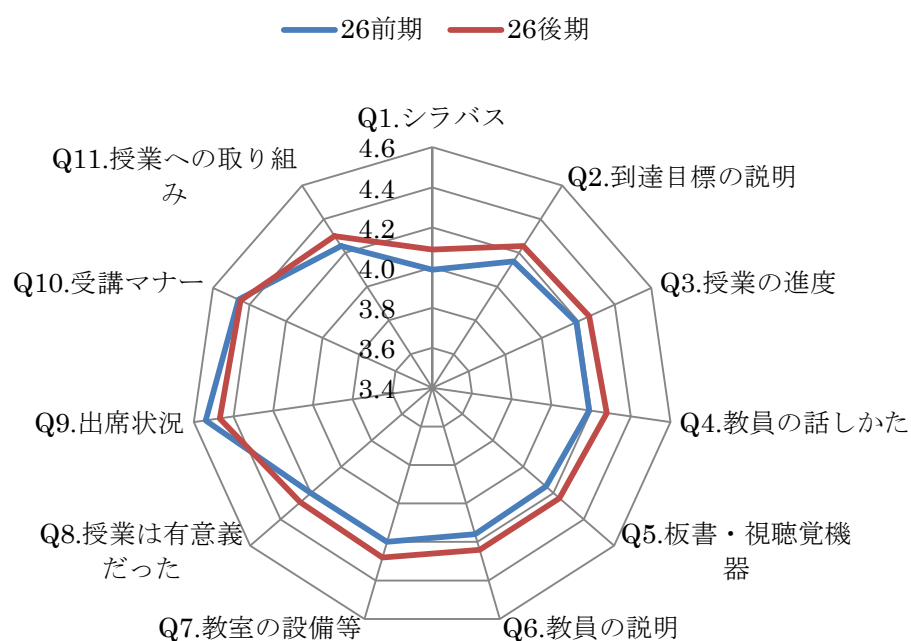


図 1 大学全体の結果（平均値）

3. 学年別の平均値（図2）

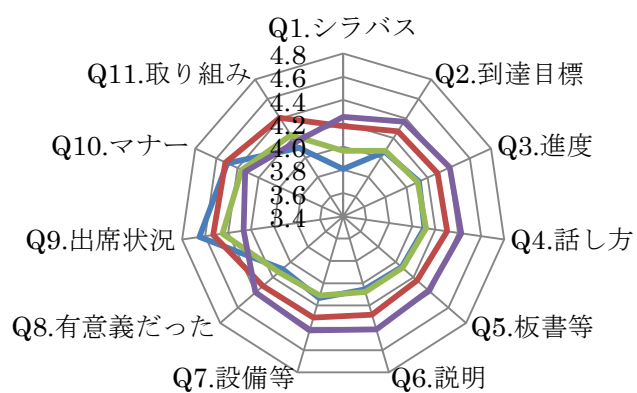
前期

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	3.81	4.18	3.96	4.26	3.99
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.06	4.27	4.07	4.37	4.15
Q3 授業の進度	4.12	4.29	4.10	4.40	4.19
Q4 教員の話し方	4.11	4.30	4.12	4.43	4.19
Q5 板書・視聴覚機器	4.07	4.24	4.08	4.37	4.15
Q6 教員の説明・指導	4.06	4.28	4.08	4.41	4.16
Q7 教室の環境・設備・機材	4.13	4.31	4.11	4.42	4.20
Q8 授業は有意義だった	4.09	4.31	4.13	4.40	4.20
Q9 出席状況	4.65	4.53	4.45	4.27	4.54
Q10 受講マナー	4.50	4.51	4.36	4.33	4.46
Q11 授業への取り組み	4.10	4.41	4.23	4.16	4.24

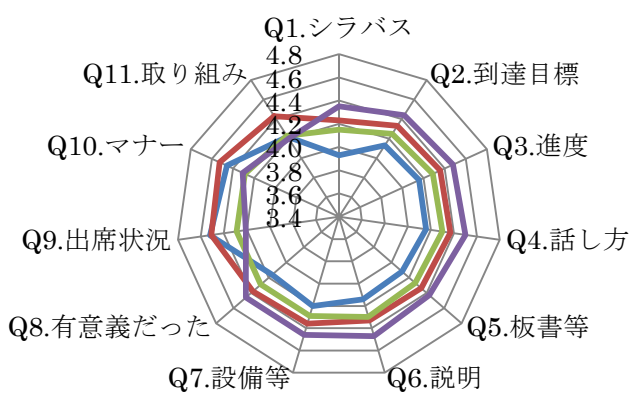
後期

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	3.93	4.23	4.15	4.35	4.09
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.13	4.33	4.25	4.44	4.24
Q3 授業の進度	4.16	4.36	4.29	4.48	4.26
Q4 教員の話し方	4.16	4.37	4.30	4.50	4.28
Q5 板書・視聴覚機器	4.12	4.34	4.27	4.43	4.24
Q6 教員の説明・指導	4.14	4.33	4.30	4.47	4.24
Q7 教室の環境・設備・機材	4.20	4.36	4.29	4.46	4.28
Q8 授業は有意義だった	4.16	4.38	4.29	4.46	4.27
Q9 出席状況	4.52	4.51	4.29	4.21	4.47
Q10 受講マナー	4.46	4.53	4.29	4.31	4.45
Q11 授業への取り組み	4.22	4.43	4.23	4.20	4.30

— 1年 — 2年 — 3年 — 4年



前期



後期

図2 学年別の平均値

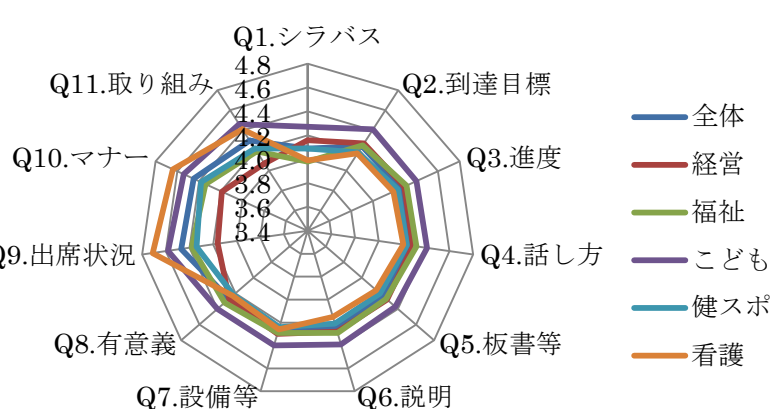
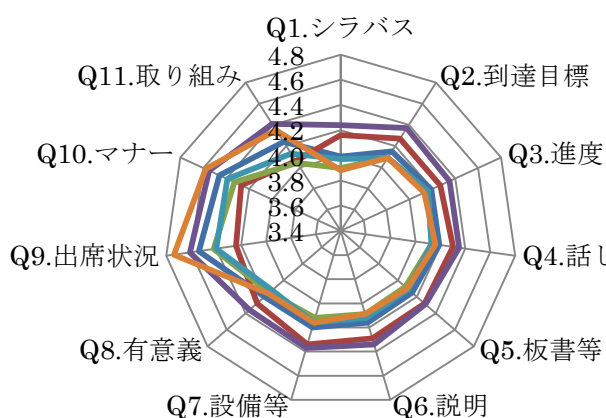
4. 学科別の平均値（図3）

前期

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営	福祉	こども	健康 スポーツ科	看護
Q1 シラバス	4.16	3.90	4.24	3.97	3.88
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.27	4.09	4.37	4.09	4.09
Q3 授業の進度	4.27	4.16	4.35	4.16	4.13
Q4 教員の話し方	4.30	4.13	4.35	4.13	4.16
Q5 板書・視聴覚機器	4.28	4.08	4.29	4.11	4.10
Q6 教員の説明・指導	4.29	4.09	4.34	4.12	4.09
Q7 教室の環境・設備・機材	4.34	4.12	4.37	4.16	4.16
Q8 授業は有意義だった	4.28	4.15	4.36	4.12	4.16
Q9 出席状況	4.24	4.42	4.61	4.40	4.74
Q10 受講マナー	4.27	4.33	4.55	4.39	4.58
Q11 授業への取り組み	4.06	4.04	4.41	4.13	4.35

後期

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営	福祉	こども	健康 スポーツ科	看護
Q1 シラバス	4.16	3.98	4.27	4.09	3.99
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.27	4.25	4.41	4.18	4.17
Q3 授業の進度	4.29	4.31	4.40	4.23	4.19
Q4 教員の話し方	4.29	4.32	4.41	4.24	4.21
Q5 板書・視聴覚機器	4.28	4.27	4.37	4.20	4.16
Q6 教員の説明・指導	4.28	4.29	4.39	4.21	4.15
Q7 教室の環境・設備・機材	4.30	4.29	4.40	4.24	4.26
Q8 授業は有意義だった	4.27	4.32	4.40	4.22	4.23
Q9 出席状況	4.16	4.38	4.58	4.34	4.71
Q10 受講マナー	4.19	4.34	4.54	4.38	4.64
Q11 授業への取り組み	4.07	4.19	4.46	4.22	4.41



前期

後期

図3 学科別の平均値

5. 最近3年間の平均値の推移

	24年度		25年度		26年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1 シラバス	3.84	3.92	3.93	4.03	3.99	4.09
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.99	4.06	4.07	4.19	4.15	4.24
Q3 授業の進度	4.02	4.10	4.10	4.21	4.19	4.26
Q4 教員の話し方	4.01	4.11	4.11	4.22	4.19	4.28
Q5 板書・視聴覚機器	3.95	4.04	4.05	4.16	4.15	4.24
Q6 教員の説明・指導	3.98	4.08	4.07	4.20	4.16	4.24
Q7 教室の環境・設備・機材	4.05	4.11	4.12	4.20	4.20	4.28
Q8 授業は有意義だった	4.02	4.10	4.10	4.21	4.20	4.27
Q9 出席状況	4.46	4.40	4.50	4.45	4.54	4.47
Q10 受講マナー	4.37	4.33	4.43	4.44	4.46	4.45
Q11 授業への取り組み	4.05	4.10	4.17	4.26	4.24	4.30

6. 各科目の履修者数別の平均値（26年度後期）（図4）

	10名未満	10～24名	25～49名	50～99名	100名以上	全体
Q1 シラバス	4.28	4.28	4.10	4.06	4.09	4.09
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.46	4.46	4.25	4.21	4.19	4.24
Q3 授業の進度	4.50	4.47	4.31	4.22	4.22	4.26
Q4 教員の話し方	4.55	4.49	4.33	4.21	4.24	4.28
Q5 板書・視聴覚機器	4.44	4.47	4.29	4.18	4.20	4.24
Q6 教員の説明・指導	4.49	4.47	4.29	4.21	4.18	4.24
Q7 教室の環境・設備・機材	4.49	4.45	4.32	4.24	4.24	4.28
Q8 授業は有意義だった	4.50	4.48	4.30	4.23	4.22	4.27
Q9 出席状況	4.39	4.39	4.34	4.48	4.54	4.47
Q10 受講マナー	4.41	4.41	4.36	4.46	4.53	4.45
Q11 授業への取り組み	4.31	4.32	4.24	4.26	4.37	4.30

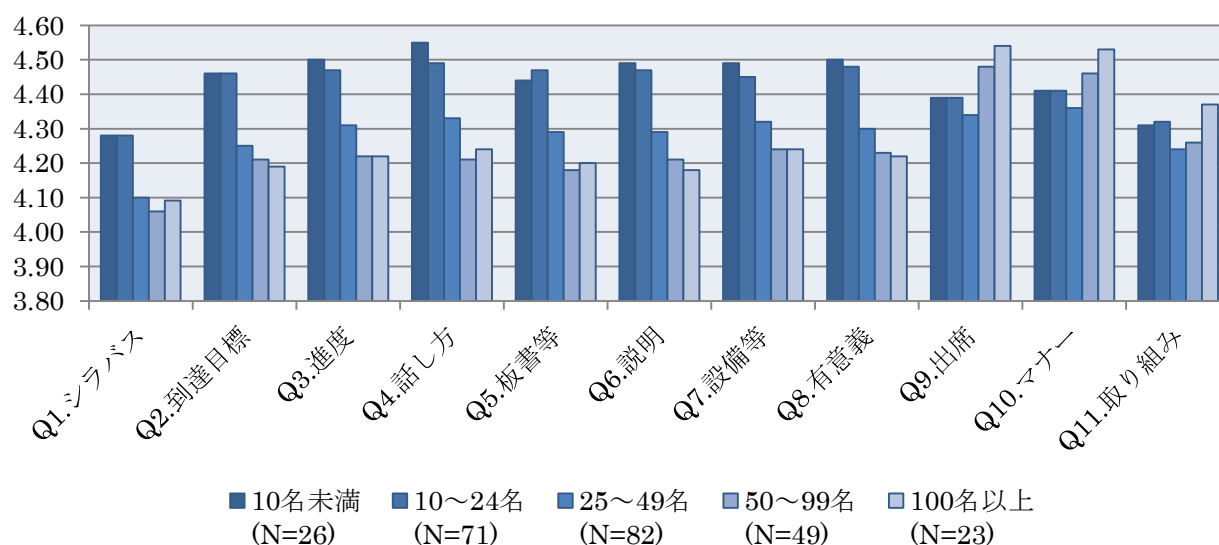


図4 各科目の履修者数別の平均値（26年度後期）

F D 関連図書コーナー新着案内

本学図書館 1 階の参考図書架に設置されている「F D 関連図書コーナー」では、毎年多数発刊される国内の F D 関連図書の中から、特に有用なものを選定・購入し、蔵書を充実させてきています。

今年度新たに購入した図書の主なものは、次の通りです。

自由に閲覧、貸し出しができますので、多数の方のご利用を、心からお待ちしております。

書 名	著 者 名
学生の学力と高等教育の質保証 2	山内乾史、原清治
学生支援に求められる条件 学生支援GPの実践と新しい学びのかたち	大島勇人、浜島幸司、清野雄多
ソーシャル・メディアでつながる大学教育 ネットワーク時代の授業支援 知のアート・シリーズ 2	箆谷和弘、小林盾
シリーズ大学 7 対話の向こうの大学像	広田照幸、吉田文、小林伝司
大学のIR Q&A 高等教育シリーズ 161	中井俊樹、鳥居朋子、藤井都百
地方国立大学一学長の約束と挑戦 ～和歌山大学が学生、卒業生、地域への「生涯応援宣言」をした理由～	山本健慈
大学授業のパラダイム転換 ICT時代の大学教育を創る	加藤幸次
アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換	溝上慎一
ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために	松下佳代
「学び」の質を保証するアクティブラーニング 3年間の全国大学調査から	河合塾
大学生の学びを育む学習環境のデザイン 新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦	岩崎千晶
反転授業実践マニュアル 無料ツールで始めてみよう！	井上博樹
グループ学習入門 学びあう場づくりの技法	新井和広、坂倉杏介
FDガイドブック 大学教員の能力開発 高等教育シリーズ 162	ガレスピー、ロバートソン／羽田訳
ファカルティ・ディベロップメントを超えて 日本・アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアの国際比較	東北大学高等教育開発推進センター
大学教育～越境の説明をはぐくむ心理学～	富田英司、田島充士
高等教育研究第17集 特集: 大学教育のマネジメントと革新	日本高等教育学会
キャリアデザイン学への招待 研究と教育実践	金山喜昭、児美川孝一郎ほか
キャリアデザイン講座第2版 理論と実践で自己決定力を伸ばす	大宮登
プレステップキャリアデザイン 第2版 Pre-step 11	岩井洋、奥村玲香、元根朋美
学生主体型授業の冒険 2	小田隆治 杉原真晃
ゼミ入門 大学生の知的生活第一歩	野村一夫
大学学びのことはじめ 3訂 初年次セミナーワークブック	佐藤智明、矢島彰、山本明志
大学新入生ハンドブック ～大学生活これだけは知っておきたい～	世界思想社
大学一年生の文章作法	山本幸司
大学生の日本語リテラシーをいかに高めるか 大学の授業をデザインする	成田秀夫、大島弥生、中村博幸
大学生の学習ダイナミクス 授業内外のラーニング・ブリッジング	河井亨
大学再生への具体像 第2版 大学とは何か	潮木守一
大学教員のためのルーブリック評価入門 高等教育シリーズ163	スティーブンス、レビ／佐藤浩章訳
ピアチューター・トレーニング 学生による学生の支援へ	谷川裕稔、石毛弓、津嘉山淳子
E ラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業の 文章作成能力に及ぼす効果	富永敦子
「創造性」を育てる教育とマネジメント 大学教育を革新するアカデミック・コーチングへ	佐藤大輔

平成26年度 FD推進委員会 活動記録

- 平成26年 5月23日 平成26年度 第1回委員会
議題 1) 平成26年度活動計画案
 2) その他
- 7月10～29日 学生による授業アンケート調査（前期）
- 8月20、22日 FD講習会「実用統計講座」
講師 経営学部 経営学科 福井 正康 教授
 経営学部 経営学科 尾崎 誠 講師
- 10月3日 平成26年度 第2回委員会
議題 1) 授業アンケートについて
 2) FD研修会について
 3) その他
- 平成27年 1月14日～ 学生による授業アンケート調査（後期）
 2月4日
- 1月22日 第10回 私の授業発表会
 授業発表と参観報告
 看護学部 看護学科 谷田 恵美子 教授
 看護学部 看護学科 林田 馨 准教授
- 2月12日 平成26年度FD研修会
テーマ 「Future Design for Active Learning
 ～アクティブ・ラーニング事始め～」
講師 関西大学 教育推進部 教育開発支援センター
 副センター長 三浦 真琴 教授
- 3月2日 平成26年度 第3回委員会
議題 1) 授業アンケートについて
 2) その他
- 3月 FD関連図書コーナー（図書館）蔵書追加
- 3月31日 FDニューズレター第11号発行

編集後記 FDニューズレター第11号をお届けします。今年度は、看護学科の2人の先生による「私の授業発表会」や、関西大学から三浦先生をお迎えしてのFD研修会、福井先生と尾崎先生によるFD講習会、学生による授業アンケートなど、本学のFD活動もすっかり定着し、内容も徐々に充実してまいりました。これもひとえに先生方のご協力のおかげと考えております。どうもありがとうございました。お礼を申し上げます。今後とも福山平成大学のFD活動が、より活性化していくよう努力してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。（K. K）